



## &lt;来週の資金需給予想とイベント予定&gt;

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/26 (月)	+ 300	▲ 2,700	▲ 2,400	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 34,100 CP等買入 ▲ 300		
2/27 (火)	トン	+ 8,000	+ 8,000				日：全国CPI (前年比/1月) 米：消費者信頼感指数 (2月)
2/28 (水)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	国債発行 (5年CTB)			日：景気先行CI指数 (12月) 米：GDP (4Q) 欧：ユーロ圏消費者信頼感指数 (2月)
2/29 (木)	▲ 900	+ 6,500	+ 5,600				日：鉱工業生産 (1月)
3/1 (金)	▲ 1,000	▲ 35,000	▲ 36,000	国債発行 (2年)			日：完全失業率 (1月) 日：有効求人倍率 (1月) 欧：ユーロ圏CPI (2月)

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3,400億円減少の536兆3,800億円から始まった。その後、国債発行や財政資金の貸付回収等の要因により、21日には534兆2,100億円まで減少したものの、22日には国債買入を主因に、537兆2,300億円（速報）まで増加し越過となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初▲0.006%から始まり、その後も取り手の調達意欲が底堅く同金利は横這いで推移した。22日には週末4日積要因により取り手の調達意欲がさらに高まり、同金利は▲0.005%（速報）に上昇した。

ターム物は1W～1M物を中心に▲0.010%～▲0.001%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、27日に全国CPI（前年比/1月）、1日に完全失業率（1月）、有効求人倍率（1月）の公表、海外では27日に消費者信頼感指数（2月）、1日にユーロ圏CPI（2月）の公表などがある。

## [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.010 ~ 0.010
2M	0.000 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

## &lt;レポ&gt;

足許GICは週初▲0.10%～▲0.085%で出会い始め、輪番オペがオファーされた21日には▲0.11%近辺まで低下した。

3m短国の入札が行われた22日は▲0.10%から出会い始め▲0.09%近辺まで上昇した。

SC取引は2年454～457回債、5年149～165回債、10年350～373回債、20年185～187回債、30年69～81回債、40年14～16回債などに引合いが多く見られた。

## [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.050

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約1兆2,400億円で、週間償還額（約8,000億円）を上回った。発行市場は、祝日により営業日数が少なかったものの、機械や化学等の業種にて大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は前週末の27兆4,297億円から21日時点で27兆4,142億円と小幅の減少となった。発行レートは概ね0%近辺からベース台前半での出会いが中心であった。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還（約2兆3,500億円）を含み、約2兆8,800億円となっている。発行市場は、決算期末の有利子負債圧縮の目的から、ショートターム物の発行が中心となることを予想する。発行レートは、金融政策修正の警戒感等から、発行期間の長い銘柄等については上昇余地を探る展開が見込まれる。26日に、CP等買入れオペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

## &lt;TDB&gt;

19日の1Y（1214回債）の入札は、最高落札利回り0.0468%（前回債▲0.0461%）、平均落札利回り0.0129%（前回債▲0.0551%）となった。

22日の3M（1215回債）の入札は、最高落札利回り▲0.0986%（前回債▲0.1098%）、平均落札利回り▲0.1120%（前回債▲0.1157%）となった。

来週は、1日に3Mの入札が予定されている。